

川崎認定保育園 情報提供シート

施設名	うさぎ保育園	所在地	〒 210-0812 川崎市川崎区
			東門前3-3-7グランシェリーイトウ102
			TEL 044-277-3549
			FAX 044-277-3549

開設年月日	昭和 61 年 9 月 30 日	QRコード
-------	------------------	-------

交通手段	京急大師線東門前駅下車 徒歩3~5分
------	--------------------

●施設構造等

構造・規模		築年月	平成 元年 12 月
保育室面積	43.17 m ²	園庭	園庭なし

●定員・職員数・開所日時

受入年齢	0 歳児 ~ 5 歳児 ※0歳児は 生後5ヵ月から						
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
定員	3 人	3 人	7人				13 人

職員数	有資格者	その他従事者
	3 人	2 人

開所時間		通常（基本保育時間）		延長保育	
		平日	7 時 00 分から	19 時 00 分まで	19 時 00 分から
				時 分から 時 分まで	
土曜日	7 時 30 分から	18 時 00 分まで		時 分から 時 分まで	
				時 分から 時 分まで	
休日	休園日		休園日		

※各種保育サービスの実施（詳細は応相談）

⇒ 一時預かり 休日保育 障害児保育 その他（ ）

●保護者負担

入園料	20,000 円
進級費（毎年）	円

（注）料金は変更になっている場合もありますので、見学时に改めて御確認ください。

利用料金	年齢	基本保育料（月額）※ （7:30~18:30）	その他費用	早朝保育料（月額） （7:30~8:00）	延長保育料
					（月～金：18:30以降 土：16:00以降等）
金	0 歳	58,000 ~ 65,000 円	給食費・おやつ代 →6,000円 冷房費：1,500円 暖房費：3,000円	円	・17:00~15分毎 100円 ・18:00~15分毎 200円 ・19:00~15分毎 300円
	1 歳	45,000 ~ 55,000 円			
	2 歳	円			
	3 歳	42,000 ~ 52,000 円			
	4 歳	円			
5 歳	円				

※ 平日の週5日利用及び川崎市保育料補助金の支給要件を満たす場合の料金です。

補助・割引	幼児教育・保育の無償化給付 ※1	0~2歳児	非課税世帯のみ 42,000 円
		3歳児~	37,000 円
	川崎認定保育園保育料補助金（月額）※1	0~2歳児	20,000 円 又は 10,000 円 ※2
		3歳児~	5,000 円
	川崎市多子減免（月額）※3		10,000 円
	施設独自の兄弟割引の実施		あり



※1 補助金の支給には保育の必要性の認定を満たす等の要件を満たしていることが必要です。

※2 世帯の市民税所得割相当額が321,700円未満の場合は20,000円、それ以上の世帯は10,000円です。（半年ごと後払い）

※3 多子減免の適用は、兄弟が認可保育所等、川崎認定保育園、幼稚園等を利用している場合のみです。

※ このシートは、各施設に記入いただいたものを情報提供しています。

シート記入日 令和 4 年 12 月 25 日

●送迎

送迎バス	なし
車での送迎	なし

●給食

給食の実施	実施	実施方法	(月) おかず付きの保護者のお弁当 (火・木) 仕出しのお弁当 (水・金) 当園での調理
離乳食の実施	実施		
献立表の有無	有 (月ごと)	アレルギー対応	可能 (応相談)

●施設の運営方針、保育の特徴

<方針>

一人一人の生活リズムを考慮しより家庭生活に近い雰囲気の中で過ごせるように努める。

<保育目標>

- ・一緒に遊ぶ(行動する)ことによって喜び、協調性、助け合う心を育てる。
- ・色々なものに触れ合うことによって自分の目で見て、自分の耳で聞いて、自分で考えられる様に育てる。

うさぎ保育園の「うさぎ」とは、うさぎのように体全身元気いっぱい飛び跳ねられる子どもになる様に願いを込めて「うさぎ」と名付けました。

- ・当園は、昭和61年9月に開園し大きな事故やケガもなく安心安全な保育を実施してきました。これからも安心安全な保育を続けていきます。
- ・駅に近く通勤に便利です。送り迎えも便利とお喜びの保護者の方もいらっしゃいます。
- ・卒園生のお兄ちゃんやお姉ちゃん達も時に訪れて一緒に遊んでくれています。
- ・昼食は、手作りで出来立ての美味しい食事を提供しています。
- ・出来る限りの行事を実施します。また、作品など一緒に作ります。(節分、ひな祭り、こどもの日、母の日、父の日、七夕、敬老の日、ハロウィン、クリスマス)
- ・地域の方々との交流を通して共に生きる大切さを醸成する。
- ・三つ子の魂百までと言うことわざがあります。大切な時期を預かる身として、この仕事をまっとうしたいと考えております。

●地図

